

消費者の皆さま

1. 放牧の良さ

国内飼料資源の有効利用、環境や家畜へのメリット、SDGs の実現

(1) 国内飼料資源の有効利用

国内の飼料資源を活用した輸入飼料への依存度を抑える牛の飼い方です。

(2) 環境へのメリット

放牧では牛が草を食べ、その場でふんや尿を排せつするため、エサの収穫・運搬やふん尿の処理等に使う機械も必要ありません。排出される CO₂量が削減され、また労働が軽減されます。さらに、放牧地は炭素蓄積、土壤保全、保水機能を有しています。

(3) 動物へのメリット

牛は放牧地で自由に動き回ることで足腰が鍛えられ、生産期間の延長や分娩事故の減少につながります。またアニマルウェルフェア（家畜福祉）にも適しています。

(4) 消費者としてのメリット

生物多様性や SDGs 実現への手段となり、牛にも環境にも優しい畜産業といえます。また特徴ある乳肉の生産物が得られます。

概要

日本の飼料自給率（2022 年度）は 26% で、飼料全体の 3/4 を輸入飼料に頼っています。このため、放牧に加えて飼料用のイネ、トウモロコシなど、国産飼料を利用する家畜の飼養は乳肉の安定生産に重要です。

放牧では牛が自由に動き回り放牧草を食べて、ふん尿を排せつします。このため牛にエサを与えることや、牛舎に溜まったふん尿を回収・処理する必要がありません。そのため、これらの機械が不要になり、機械に必要な燃料とその燃料から排出される CO₂量の削減につながります。さらに放牧の割合が増えて、海外からの飼料の輸入が減れば、輸送燃料の削減にもつながります。これらにより SDGs（持続的な開発目標）の達成に向けても寄与するところが多くあります。

放牧牛は広い草地を動き回り足腰が鍛えられます。これにより、例えば繁殖牛の分娩事故リスクが減り、供用年数が延長するなど、飼い主だけでなく牛にとってもメリットがあります。また、放牧は、家畜が自由に動きまわるなどアニマルウェルフェアにも優れています。さらに放牧で飼養された牛からは、ビタミン A、E、共役リノール酸などの機能性成分を多く含む乳肉が生産されます。既に、放牧による特徴ある風味を生かした牛乳、チーズやバターが生産されています。

日本では土地を放っておくと木本類が侵入しますが、放牧により草原状態が維持されます。そこには、草原でしか育つことのできない草花やその草花等に依存している昆虫類などが生き残り、生物多様性が維持されます。さらに広大な草地は、気持ちのいい景観を提供します。

以上のように、放牧には様々なメリットを有しています。

＜参考リンク＞

★畜産と SDGs（農畜産業振興機構）
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001290.html

★持続可能な肉用牛生産（（一社）全国肉用牛振興基金協会）
<https://nbafa.or.jp/sustainable/outline.html>

★アニマルウェルフェア（農林水産省）
<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/230726.html>

★特徴ある乳製品（農研機構、（一社）日本草地畜産種子協会）
https://www.naro.affrc.go.jp/archive/nilgs/kenkyukai/files/jikyushiryoriyo_2010pdf_05.pdf
<https://souchi.lin.gr.jp/ninsho/pdf/kinou002.pdf>

★放牧で仕上げた日本短角種の肉質（農研機構）
<https://www.naro.affrc.go.jp/org/tarc/seika/jyouhou/H16/to04044.html>

消費者の皆さま

2. 日本における放牧の現状

(1) 経営内放牧（個人所有の土地での放牧）

牛舎に隣接する放牧地

耕作放棄地（水田、畑、桑園、果樹園、茶園、林地、竹林などの跡地）など

(2) 公共牧場

全国に設置されています。次項の公共牧場って何？も参照ください。

概要

放牧は個人の放牧地（経営内）や公共牧場で行われています。2022年の放牧頭数をみると、酪農では、全国の飼養頭数の約17%の22.9万頭、肉用牛（繁殖）では、全国の約14%の9.0万頭、となっています。地域別では草地面積の広い北海道では経営内放牧が、都府県では公共牧場での放牧が多くなっています。北海道の酪農でも放牧主体の経営は5～10%を占める程度です。しかし、新規就農者は、牛に出来ることは牛に任せるという持続的で所得率の高い放牧経営を目指す傾向にあり、経営継承などの方法で就農しています。また、世代代わりを機に舎飼中心の経営から放牧経営に転換する経営体も現われてきています。

消費者の皆さま

3. 公共牧場ってなに？

(1) 公共牧場

畜産農家から牛を預かって、農家の代わりに飼ってくれる牛の保育園のような場所です。主に都道府県や市町村、農協などにより運営されています。

(2) 預かる（預託）牛の種類や期間

まだ乳を出していない若い乳牛（育成牛）やお腹に子牛のいるお母さん牛（肉用繁殖牛）やお母さんになる牛などが預けられています。さらに種付け（繁殖管理）を農家に代わって請け負ってくれる牧場もあります。預かってもらえる期間は、放牧できる春～夏が多いですが、1年中預かってくれる牧場もあります。

(3) 預託以外の機能

牛を放牧することで、草原としての景観を維持しています。さらに牧場によっては、畜産の学習の場や家畜とのふれあいの場などが提供されています。

概要

公共牧場は、畜産農家の労働負担を軽くしたり不足する飼料基盤を補うため、地方公共団体や農協等が、畜産農家の飼養する乳用牛や肉用牛を一定期間預かり、放牧等を通じて農家に代わってそれらの飼養管理を行う牧場です。中には長期間受胎しない牛を放牧を活用して不妊改善を専門にする牧場（リハビリ牧場）もあります。

公共牧場は全国で 682 か所（2022 年）あり、全国の牧草地面積の 14% を占めています。公共牧場を利用する牛の頭数割合は、乳用牛で 16%（83,000 頭）、肉用牛で 5%（42,000 頭）となっています。放牧を主体にして牛を飼っており、日本の重要な自給飼料の生産基盤を担っています。牧場で牛を預かる期間は、基本的に牧草が生育し、放牧ができる夏期間に限られることが多いですが、農家からの要望に応じて通年で預けられる牧場もあります。

公共牧場の概要（2022年度）

	牧場数	牧草地面積(千ha)と全国シェア(%)	乳用牛		肉用牛	
			利用頭数(千頭)	利用割合(%)	利用頭数(千頭)	利用割合(%)
全国	682	81(14)	83	16	42	5

資料：公共牧場・放牧をめぐる情勢（R6年7月、農林水産省畜産局飼料課）

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/attach/pdf/index-1277.pdf

消費者の皆さま

4. 酪農を体験するには

酪農に触れるには

- (1) 観光牧場・ふれあい牧場
搾乳、バター作りなどの体験ができるところもあります。
- (2) 酪農教育ファーム
学校や教育現場と連携して食、農業、命について酪農を通して学びます。
- (3) 農泊・ファームステイ
地域の牧場に滞在して、酪農に触ることができます。

概要

全国には、食事や製品を購入するだけでなく、搾乳、えさやりなど家畜にふれる体験ができる牧場もあります。また、教育として学校と連携して、生徒を受け入れている牧場もあります。特に、公共牧場の中には、預託以外の機能として、家畜や緑資源と人々のふれあいの場を積極的に提供する牧場もあり、「ふれあい牧場」と称して現在、全国で20か所の公共牧場が「ふれあい牧場協議会」を構成しています。牛乳も牛肉も親牛が子牛を生むことによって生産されます。命のリレーで成り立っている産業です。畜産のことを理解することは、畜産農家を応援する一歩です。ただし、牧場には防疫上の問題から、人の出入りが制限されている区域があります。人と牛の両方の安全、健康を守るために、決められたルールを守りましょう。これらの牧場を訪れる際は見学会ができるか調べてから行くようにしましょう。



<参考リンク>

★ふれあい牧場協議会 ((一社) 日本草地畜産種子協会)

http://souchi.lin.gr.jp/association_info/2.php

★ふれあい牧場 ((一社) 日本草地畜産種子協会)

<http://souchi.lin.gr.jp/farm/4.php>

消費者の皆さま

5. 放牧畜産物はどこで買えるの？

(1) ネットで購入

Web サイトや SNS で調べて直接購入するのが、最も早く確実です。ただし現状は「放牧」の定義はそれぞれです。

(2) 放牧畜産基準認証制度

(一社) 日本草地畜産種子協会の放牧畜産基準認証制度に基づき認証した放牧畜産関連商品については、認証マーク付きで一般販売されています。

(3) 放牧酪農乳製品フェア

(一社) 日本草地畜産種子協会が主催している「放牧酪農乳製品フェア」もその一つで、放牧畜産基準認証を受けた牧場の畜産物が購入できます。各地で開催される関連イベントでも購入可能です。

<参照リンク>

★放牧畜産基準認証制度 ((一社) 日本草地畜産種子協会)

<http://souchi.lin.gr.jp/ninsho/index.html>

★放牧酪農乳製品フェアの開催 ((一社) 日本草地畜産種子協会)

<http://souchi.lin.gr.jp/>

消費者の皆さま

6. 放牧酪農牛乳生産基準及び放牧酪農乳製品生産基準の認証工房の紹介

放牧酪農を実践している経営が放牧酪農牛乳生産基準及び放牧酪農乳製品生産基準の認証を取得して自ら生産物を加工し販売している工房や乳業メーカーがあります。大手の乳業会社としては、放牧牛乳加工販売に10年以上の歴史のあるよつ葉乳業（北海道音更町、十勝主管工場）が関東、関西圏の消費者組織「よつ葉会」（よつ葉牛乳を飲む会）に産直提供しています。これは残念ながら消費者グループのみへの提供です。

個人経営の工房をいくつか以下に紹介します。

（1）しあわせチーズ工房（本間幸雄氏）

この工房は北海道足寄町にある個人経営です。町内の放牧畜産実践牧場認証の「ありがとう牧場」（吉川 元氏）から主として牛乳を購入してチーズを加工して販売しています。10年を超える歴史があり、チーズコンクールにおいていくつかの受賞歴のある工房です。放牧酪農乳製品生産基準認証工房です。



工房看板



工房兼店舗



チーズ製造攪拌機



熟成庫

(2) あすなろファーミング（村上悦弘氏）

当工房は十勝地域の清水町にある村上牧場産牛乳を加工販売しています。当牧場は放牧畜産実践牧場認証に加え、有機飼料生産をはじめアニマルウェルフェア認証や JGAP 認証、農場 HACCP など多くの認証牧場です。工房では放牧酪農牛乳や多種類の乳製品が生産され販売されています。この工房の歴史は古く、すでに 30 年以上であり現在 2 代目です。広く全国展開しています。放牧酪農牛乳生産基準及び放牧酪農乳製品生産基準の認証の工房です。

販売は牛乳と各種の乳製品（バター、ヨーグルト、ソフトクリーム、チーズ）



店舗兼工房



店舗内部各種製品



チーズ工房



チーズ熟成庫

(3) ユートピア アグリカルチャー

札幌市の菓子メーカー（きのとや）が直営の放牧畜産実践牧場の牛乳を加工し販売しているものです。当会社はかねてより直営の採卵農場を運営しており、菓子の原料に利用しております。7年ほど前に日高管内の離農した牧場を取得し、同時に放牧飼養に転換して放牧畜産実践牧場認証を取得しました。札幌市内に新たに店舗兼工房を新設して放牧酪農牛乳生産基準及び放牧酪農乳製品生産基準の認証を受けています。牛乳とヨーグルトを製造して販売しています。



店舗兼工房



工房



牛乳

